



移住者としての挑戦 小さな村の喫茶店が繋ぐ、地域おこしと国際協力

鰐渕 元貴さん 村の喫茶店もくもく
Genki Wanibuchi

高齢化率日本一の自治体として知られる群馬県・南牧村。

この村に世代の垣根を越えて様々な人たちが集う小さな喫茶店があります。

JOCVを経て南牧村へ

鰐渕さんは、学生時代から国際協力と農業に興味を持ち、大学では農学部で学ぶ傍ら、アジアや大洋州の国々を数多く旅行で訪れた。現地の農村部を訪れ、人々の生活を肌で感じる中で、地域の農業を支援する活動がしたいと思うようになった鰐渕さんは、大学卒業のタイミングでJICA海外協力隊（以下、JOCV）に参加することを決意。任国のウガンダでは、国立の農業研究所に配属され、半乾燥地域に適した稲作の研究と、近隣の農家への稲作普及活動を行った。農業経験が少ないながらも、周囲の人や環境に恵まれて、充実した二年間の活動を過ごすことができた

という鰐渕さん。ウガンダから帰国して大学院に進学した後、自身の次なる進路として選んだのは、群馬県南牧村の地域おこし協力隊であった。その選択に至った背景には、ウガンダでの生活を経て感じた、次のような想いがあったという。「ウガンダはとても子供が多い国だったので、日本に帰国して、地域社会の少子高齢化をすごくリアルに感じるようになりました。そうした国内の課題に対して、自分として何かできることはないだろうか考えるようになったときに、高齢化率日本一の自治体である南牧村の地域おこし協力隊の募集と出会い、ここなら自分のウガンダでのJOCV経験を活かしながら、地域社会に貢献できる働き方ができるのではないかと、南牧村で新しい挑戦をするこ

とに決めました」

ウガンダとつながる喫茶店が、 地域にもたらすもの

そんな鰐渕さんが、故郷の奈良県から一緒に南牧村へと移住してきた妻の侑生さんと営んでいるのが『村の喫茶店もくもく』だ。お店では、鰐渕さんの任国であったウガンダ産のコーヒーを提供





店内で販売されているウガンダのクラフト製品



ウガンダ農村部での稲作研修会



お店で開催されたカラオケ大会の様子

しており、飲みやすくスッキリとした味わいは、それまであまりコーヒーに馴染の無かった、地域の高齢のお客さんたちにも好評だという。また、店内ではカラフルなウガンダのクラフト製品も販売されており、こちらを目当てに来店するお客さんもあるほど人気なのだそう。クラフト製品の中には、ウガンダで活動中のJOCV隊員から仕入れたものもあり、帰国して8年近くが経過した今でも「そうした繋がりを持ち続けられていることが嬉しい」と鰐淵さんは言う。このように、ウガンダとの繋がりを活かしたお店作りに取り組む一方、地域に根差した南牧村の交流拠点として、様々な催しを企画することも現在の鰐淵さんの重要な仕事のひとつになっている。「店では、写真展や映画上映会、カラオケ大会など様々なイベントを開催しているのですが、その際にもウガンダでJOCVとして活動をした時の経験が活きていると思います。例えば、稲作普及活動の一環で、地域の農家さんを対象にした研修会を企画したことが何度かあったのですが、その時に身をもって学んだのが、継続的なコミュニケーションの重要

性でした。研修会を一度実施して終わりにするのではなく、会を終えた後にも参加者とコミュニケーションをとり続けることで、研修を通して伝えなかったことを伝えられたか確認することができましたし、フィードバックをもらう中で課題が浮かび上がってきて、それを次の研修の内容に活かすこともできました。こうしたウガンダでの学びをしっかりと活かしながら、これからも地域の人たちと一緒に、楽しいイベントをたくさん作っていけたらいいなと思っています」

地域を次の世代に 繋いでいくために

ウガンダとの繋がりや、JOCVとしての活動経験を活かしながら『村の喫茶店もくもく』の運営を行っている鰐淵さんだが、お店の営業とは別に、南牧村の教育に関わる事業にも移住直後から関わっている。お店では、村の子供たちを対象とした英会話教室を毎週開催しているほか、ウガンダの小学校と南牧村の学校を繋いでのオンライン交流授業を実施するなど、JOCV経験者なら

鰐淵 元貴さん プロフィール

1993年生まれ。奈良県出身。大阪府立大生命環境科学部（現：大阪公立大学農学部）卒業後、食用作物・稲作栽培隊員としてJICA海外協力隊に参加。ウガンダ東部セレレ県の国立半乾燥資源研究所に配属され、稲作振興の活動に従事。帰国後、2019年に地域おこし協力隊として群馬県南牧村に移住し、夫婦で『村の喫茶店もくもく』を開業。2022年に独立。

ではの学びの機会を村の子供たちに提供している。そうした教育分野での活動に対して、鰐淵さんは次のような想いを抱いている。「ウガンダという、日本から遠く離れた異国の地で生活をして自分との関りを通して、子供たちが少しでも世界のことに興味を持ってくれたら嬉しいなと思っています。南牧村では、私のような地域住民が子供たちの教育に関わっていける環境があるので、それを自分なりに精一杯活用して、魅力ある南牧村の教育を作っていくお手伝いができたらいいなと考えています」喫茶店の営業から教育に至るまで、南牧村で幅広い活動に取り組む鰐淵さん。地域が次の世代へと繋がっていくことを願って、その挑戦の日々はこれからも続く。

鰐淵さんへの エール！

南牧村村長
長谷川 最定さん



協力隊は村とともに成長するパートナー

やりたいことにチャレンジしたいという人にとって、お金は全てではないのかもしれませんが、自立して生きていくために、稼ぎは必要です。金儲けしようと思って来たわけではないと言いますが、もっと金銭的に貪欲になっていいと思いますよ。一生懸命働くと、自由がなくなると考えているのかな（笑）。そんな心配をしなくて済むよう、村としても全面的にバックアップします。新たに挑戦したいことがあるなら、思い切って挑んでほしいです。